

スギ材を活用した燃えどまり型木質耐火構造部材

円形ホールを計画

V字接合部などの検証に取組む

秋田県立大学を中心としたグループが開発を進めてきた「スギ材を活用した燃えどまり型木質耐火構造部材」(1時間耐火認定)が秋田県能代市の高齢者施設の屋根構造で採用されることになった。同部材を使った物件としては2番目となる。

この耐火木質構造部材は板垣直行秋田県立大学教授を中心としたグループが開発が進められてきたもので、能代市の高齢者施設「ねむの木苑」の円形ホール屋根に使用する。ホールはRC造で、登り梁として6径の材長の木質耐火部材を製造す

る必要がある。秋田材は板垣直行秋田県立大学教授を中心としたグループが開発が進められてきたもので、能代市の高齢者施設「ねむの木苑」の円形ホール屋根に使用する。ホールはRC造で、登り梁として6径の材長の木質耐火部材を製造す



木質耐火部材を使用する

柱15立方径、梁11.5立方径を受け、藤寿産業が協方済。秋田グループが木質耐火部材の発注ともユニチームの加工機を備えており、加工面でも連携していく予定だ。

部の構造部材同士を接合する部分など、ボルト接合と被覆で秋田木高研の耐火実験炉を活用して検証していく予定だ。

設計は設計集団環協同組合。建築面積1233.44平方径、延べ床面積1366.80平方径。RC造、一部木造、S造。

今回の木質耐火部材の開発に携わってきた板垣教授は、杉製材とネイルプレートを使った木質トラスの開発にも取り組んでいる